

国語 第4学年 考えたことを文章にまとめよう

授業の設計図

元にした物：小学校学習指導要領（平成29年告示）の原文と、国立教育政策研究所の学習評価の参考資料。教科書の本文・問題・挿絵は入れていません（先生が入れる欄）。東京書籍『新編 新しい国語（令和6年度版）』の2月～3月配当を基にした授業案。教材本文・台詞・挿絵は転載していない。

この単元で子どもが最後にできるようになること

村の描写や人物の行動から考えたことを、物語の終わりと関係付けて文章にまとめる。美しいという題名への印象が、読み進める中でどう変わるかを叙述から確かめる。単元の終わりに残すのは、読んで考えたことの文章。村の描写や行動の根拠、終わりとの関係、交流で気付いた別の見方を記す。教材についての感想に加え、どの言葉をどう捉えたかが見える記録にする。

学習指導要領のどこに書いてあるか（原文）

学習指導要領の項目	原文
〔第3学年及び第4学年〕〔知識及び技能〕(1)オ	オ 様子や行動，気持ちや性格を表す語句の量を増し，話や文章の中で使うとともに，言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し，語彙を豊かにすること。
〔第3学年及び第4学年〕C 読むこと(1)オ	オ 文章を読んで理解したことに基づいて，感想や考えをもつこと。
〔第3学年及び第4学年〕C 読むこと(1)カ	カ 文章を読んで感じたことや考えたことを共有し，一人一人の感じ方などに違いがあることに気付くこと。
〔第3学年及び第4学年〕C 読むこと(2)イ	イ 詩や物語などを読み，内容を説明したり，考えたことなどを伝え合ったりする活動。

単元の目標

村の様子や人物の行動・気持ちを表す語句を確かめ、考えを説明する文章で使える。物語を読んで感想や考えをもち、交流で着目した叙述や感じ方の違いに気付ける。言葉の働きを確かめ、友達との交流を基に自分の学習を見直そうとする。

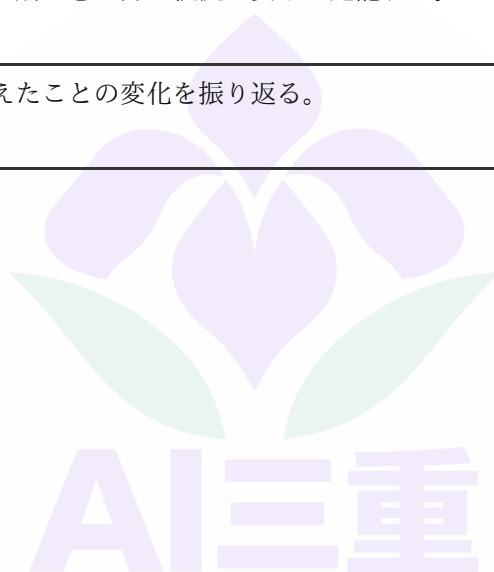
評価規準（3観点）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①村の様子や人物の行動・気持ちを表す語句を確かめ、考えを説明する文章で使っている。（〔知識及び技能〕(1)オ）	①「読むこと」において、物語を読んで感想や考えをもち、交流で着目した叙述や感じ方の違いに気付いている。（C(1)オ・C(1)カ）	①学習の見通しをもち、単元で確かめたいことに進んで取り組み、友達の言葉や自分の記録を基に、読み方・表し方を見直そうとしている。

単元の流れ

東京書籍の年間指導計画による全12時間（読む12）。総時数は出典に従い、各時間の活動と本時の選定は本案の提案として組んでいる。

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第1次	1～2	○全文を読み、題名と終わりに対する初めの考えを記録する。	学習状況を見て支援する。
第2次	3～4	○村の暮らしや人物の行動を場面ごとに読む。	知①（語句や内容の整理）
	5～6	○終わりから前の場面を読み直し、意味が深まった叙述を探す。	学習状況を見て支援する。
	7 （本時）	○村の描写と終わりを関係付けて考えを伝え合う。	思①（発言・学習記録）
	8～9	○根拠を添えた文章を書き、読み手が関係を追えるか確かめる。	学習状況を見て支援する。
	10～11	○文章を交流し、別の感じ方や根拠を受けて追記する。	学習状況を見て支援する。
第3次	12	○読み直して考えたことの変化を振り返る。	態①（学習前後の記録・振り返り）



本時の案

本時の目標：物語を読んで感想や考えをもち、交流で着目した叙述や感じ方の違いに気付ける。

段階	学習活動（○主な発問） ・予想される児童の反応	指導上の留意点（◎評価）
導入 （ 分）	本時に使う教材・前時までのノートを確認、自分の最初の考えを短く書く。 ○「村のどんな様子や人物の行動が印象に残りましたか。終わりまで読むと、その場面についての考えはどう変わりますか」 【めあて】村の描写や人物の行動から考えたことを、物語の終わりと関係付けて文章にまとめる。 〈予想される児童の反応〉 ・暮らしの様子を読むと、村を大事に思う気持ちが伝わる。	本時に考える対象を確認し、既に確かめたことと、今日確かめたいことを分ける。児童の最初の言い方を残し、まとめて比べられるようにする。
展開 （ 分）	○「村のどんな様子や人物の行動が印象に残りましたか。終わりまで読むと、その場面についての考えはどう変わりますか」 自分で言葉や本文の箇所を確認、理由を添えて考えを書く。ノートを示して説明し、聞き手は確かめたところと、まだ確かめたいところを返す。全体では考えが分かれた箇所を取り上げ、何を根拠にしたかを比べる。 〈予想される児童の反応〉 ・暮らしの様子を読むと、村を大事に思う気持ちが伝わる。 ・終わりを読むと前の場面が違って感じられる。 ・自分は人の行動、友達は景色の言葉を根拠にしていた。	村の様子と人物の行動を記録し、初読と再読の考えを並べる。背景の説明は本文を読むために必要な範囲とし、児童の感じ方を特定の主題語にそろえない。 想定する難しさ：戦争や国についての一般論だけになる。最後の文だけで感想を書き、前の場面が根拠にならない。 児童の考えを教師の想定した言い方にそろえない。理由が確かめられる考えは残し、根拠が異なるときはその違いを板書する。 ◎思① 物語を読んで感想や考えをもち、交流で着目した叙述や感じ方の違いに気付いている。（発言と学習記録）
まとめ （ 分）	【まとめ】今日確かめた言葉や表現と、それによって確かめたことを対応させて自分の言葉でまとめる。 学習前の考えと比べ、付け加えたこと、残したこと、その理由を記す。 〈予想される児童の反応〉 ・友達の考えを聞いて、自分の理由を詳しく説明できた。 ・自分は人の行動、友達は景色の言葉を根拠にしていた。	まとめの文を先に与えて写させず、児童が本時に扱った実際の言葉を入れる。書くことが難しい場合は口述を記録する。次の学習では、その記録を使って紹介や説明の文章を直す。 ◎態①（学習前後の記録と、見直した理由）

板書の構造（縦書き・右から左へ）

右端に題名と本時のめあて。その左に問い「村のどんな様子や人物の行動が印象に残りましたか。終わりまで読むと、その場面についての考えはどう変わりますか」。中央は根拠となる言葉・本文の箇所と、そこから考えたことを上下に対応させる。根拠の本文は先生が教科書から書き入れる。中央から左に児童の考

えを並べ、同じところを囲み、違いの理由を線で結ぶ。左端に、本時で確かめた実際の言葉を含むまとめと、考えを見直した理由を書く欄を置く。縦書きで右から左へ学習の順をたどれるようにする。

つまづきやすい所と手当て

難しさとして、戦争や国についての一般論だけになる。最後の文だけで感想を書き、前の場面が根拠にならない。この場合は、村の様子と人物の行動を記録し、初読と再読の考えを並べる。背景の説明は本文を読むために必要な範囲とし、児童の感じ方を特定の主題語にそろえない。おおむね満足できる状況は、物語を読んで感想や考えをもち、交流で着目した叙述や感じ方の違いに気付いているという姿で捉える。語句や本文を示さず結論だけ述べる場合は、根拠を確かめる支援を行う。発言の回数や記述の長さでは判定しない。

プリントの案

単元の学習メモ

読んで考えたことの文章。村の描写や行動の根拠、終わりとの関係、交流で気付いた別の見方を記す。教科書の文章・図は印刷せず、自分で確かめた箇所の見出しや、自分の言葉で内容を記す欄にする。

交流と見直しの記録

交流前の自分の考え、友達が伝えた言葉、その後の自分の考え、変えた又は残した理由を並べる。友達の考えに合わせることを求めず、判断の理由が分かるようにする。

出典：東京書籍 年間指導計画。教材名・配当時数・時期・重点項目の出典。https://ten.tokyo-shoseki.co.jp/text/shou/kokugo/data/kokugo_tangen_4_202401.docx／文部科学省 小学校学習指導要領（平成29年告示）。原文は手元の公式表の写しと照合。https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/1384661.htm／国立教育政策研究所「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 小学校 国語。評価基準の観点と記録の考え方。
(https://www.nier.go.jp/kaihatsu/pdf/hyouka/r020326_pri_kokugo.pdf)
AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo) https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

